



**JR東労組** (東日本旅客鉄道労働組合)  
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1  
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階  
 電話 03-5315-0941  
 2021年6月29日 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子  
 第724号 毎月1回20日発行/一部20円  
 (組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは  
 ←こちらからアクセス  
<http://www.jreu.or.jp/>

# 第40回定期大会



JR東労組は、第40回定期大会を、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、リモート会議を併用して開催しました。

第39回定期大会以降、「新生JR東労組運動宣言」のもと組合員と共に運動をつくり出し、140名を超える組織拡大を実現してきました。そして、夏季手当のたたかいは職場と一体となつてつくり出している最中に、元中央執行委員の突然の辞任と他労組加入という事態を発生させてしまったことを、中央本部として謝罪し、改めて、いかなる組織破壊策動も許さず、仲間と共にたたかっていくことを表明しました。

代議員の活発な発言によって方針が豊富化され、スローガンをはじめとする運動方針などを満場一致で確認すると共に、再建を果たした水戸地本と共に進むことを確認しました。

また、他労組からの組織破壊攻撃のみならず、不当労働行為やハラスメント行為、さらには会社幹部や社友会によって作られる「社内世論」などに立ち向かうには、現状認識を正しく行い、労働組合の存在価値を高め、組織強化・拡大を実現していくしかないことを確認しました。

21春闘の総括からつくり出した夏季手当のたたかいは、訓を、次のたたかいは、つなげ、組合員一人ひとりが主体となり組織強化・拡大を実現していきましょう！そして、全組合員で未来を切り拓いていきましょう！

## スローガン

1. 組合員の雇用と利益を守れるJR東労組をつくり出すために、「抵抗とヒューマニズム」の精神を基軸に、「新生JR東労組運動宣言」のもと、現場における自由闊達な議論と合意形成を通して組織強化・拡大を勝ち取り、組織の未来を切り拓こう！
1. 「安全・健康・ゆとり・働きがい」が担保される職場の未来を私たちの立場から捉えたいうえで、自らの将来展望と確固たる自分自身を確立し、あらゆる困難に立ち向かおう！

**「抵抗とヒューマニズム」を基軸に、これまでの実践から  
 掴み得たJR東労組の成果と課題を明確にし、  
 たたかう決意を打ち固めよう！**

中央執行委員長 あいさつ 中央執行委員長 佐藤英樹

一生忘れることができない悔しい結果になった「21春闘総括」を通じて、JR東労組運動における新たな展望を見出した「夏季手当要求実現に向けたたたかい」

本部として幾度となく総括議論を深めて参りましたが、「仕方がない」という意見は、本部が組合員をその様な意識に導いてしまったと自覚し、反省しています。問われたことは、常に本部の姿勢が組合員の皆さんに反映するということが、自らに矢印を向け、いま生み出している組織現実をどのように打開するのか日々の問いかけなくしてJR東労組は強化されないと実感しました。

赤字・コロナ禍において大きく働き方が変化していますが、業務量は増えるが生活を支える賃金は一向に向上しないという理由は何か。私たちは労働者であることを腹に据えて、様々な課題や施策に立ち向かっていきたいと思います。これまで多くの職場に閉塞感が漂っていました。こういった現状を打破するために、「仕方がない」という諦め感21春闘までと区切りをつけて、一人ひとりが22春闘に向けたたたかいをスタートさせようではありませんか。

2021年度夏季手当等に関する申し入れの会社回答に対し「昨年よりも足元の業績は回復しているにも関わらず、支給月数が減少していること」「組合員の生活実感と労働実感が会社回答と全く認識があていないこと」「昨年の夏季手当2・4ヶ月を大きく下回っていること」からJR東労組発足以来初となる「緊急再申し入れ」を本部と11地本が一体となつたたたかいを創り出してきました。組合員から「回答書はとも冷たく私たちの意見を踏まえていない」「これまで何となく会社にやられていて嫌な流れになっていて歯止めをかけることができたのではない」「JR東労組は最後までたたかう意思を表明したのは大きな前進」など多くの意見を頂きました。

ある支社の社友会を見ますと「こんなにもうろたえるとは思わなかった」とも述べられ、ここに社友会の存在意義が現れています。私たちの役割とは、こういった風土を職場からのたたかいで変革することです。安全を司るのは現場であり、組合員との議論を積み重ねながら、些細な問題でもチェック機能を果たし、解決できる組織を目指さなければなりません。

私たちは諦めることなく、組合員との議論から現実を掴み出し、現場においてたたかえば仮に要求の前進を勝ち取ることができなくても、次なるたたかいは原動力になることや未来展望を見出すことができると実感しました。会社はJR東労組の現状からすれば少数意見としか受け止めません。よって組織拡大は必至です。要求実現できなかった根拠を確定して、要求実現できて組織へつくり変えるために一人ひとりの課題を明確にして実践していきましょう。

その最中、前中執の逃亡は、組合員に対する背信行為であり、脱退、他労組への加入は、JR東労組に対する組織破壊行為です。しかし、それ以上に組合員の信頼、組合員の生活がかかっている重要な時期にこのような事態を生み出してしまった本部の責任は重大です。2年連続でこのような事態を招いてしまったことに対して全組合員の皆さんにお詫びを申し上げます。

**「自分にとってのJR東労組」を  
 明確にして、未来を展望しよう！**

さまざまな課題に直面したとき、なぜJR東労組に加入しているのか、明確にすることが重要です。そのことを考えさせられたのが、JR東労組に加入した仲間から意見交換会でした。「自分にとってJR東労組の必要性は何か」の問いに「間違っていることには、間違っていると言えらる組織」「今後の自分の未来を築いていくための組織だと思っている」「社友会で出来なかったことが、これから声を上げて皆さんと一緒に改善できるかもしれない」「黙っているよりは絶対いい」と話してくれました。こういった混迷する社会では、「諦めたら終わり」ということです。この社会に生きる人間として、どの様に生きていくのか、そういったことを再加入して頂いた組合員から学びました。

「抵抗とヒューマニズム」を基軸にした運動は、労働者としてどのように生きるのか問いかけています。その精神はこれからも変わりません。東日本大震災の影響は今なお癒えませんが、現在も家族と離れて暮らしている組合員もいます。

桜美林大学・戸崎教授は、「人間が中心になる技術継承というのは非常に重要な課題、監督能力自体が減ってしまうと監督が行き届かずに、経験がない、経験が浅い、経験を積めない方々が安全運行を担っていく。その人たちに監督能力がないと、事故の多発に繋がっていく可能性がある」「副業も副業をして初めて生活が成り立つというのとは根本的におかしな話」と述べています。こういった視点で現象面に捉われることなく、施策の狙いについて議論を深めていくことが重要です。

5月25日に新生水戸地本が誕生しました。これまでのJR東労組は、方針に対して異を唱えれば、役員から何を言われるかわからないため、自分の価値観を話すことなどなかったと思います。日々の座談会など対話を重ねながら、JR東労組を守るために最先頭で奮闘されている東京地本執行部の実践に学び、私たちの糧にしなければなりません。

JR東日本における赤字・コロナ禍の経営状況を克服するために、その責任を私たち労働者だけに転嫁させることはあってはなりません。言うべき時は言う、やるべきときはやることを明確にして様々な現実立ち向かっていきましょう。未来を切り拓くのは一人ひとりの実践であり、本部はその先頭でたたかい抜く決意を申し上げ挨拶とします。